

平成 19 年 1 月 17 日

薬事・食品衛生審議会
食品衛生分科会長 吉倉 廣 殿

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会
農薬・動物用医薬品部会長 井上 達

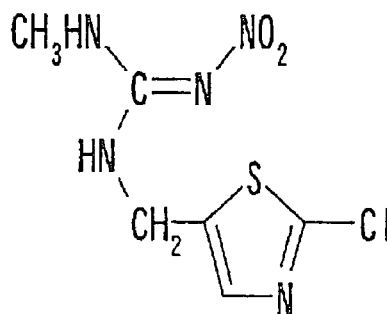
薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会
農薬・動物用医薬品部会報告について

平成 18 年 11 月 8 日厚生労働省発食安第 1108001 号をもって諮問された、食品衛生法（昭和 22 年法律第 233 号）第 11 条第 1 項の規定に基づくクロチアニジンに係る食品規格（食品中の農薬の残留基準）の設定について、当部会で審議を行った結果を別添のとおり取りまとめたので、これを報告する。

(別添)

クロチアニジン

1. 品目名：クロチアニジン (clothianidin)
2. 用途：殺虫剤
ネオニコチノイド系殺虫剤である。作用機序は、主にニコチン性アセチルコリン受容体アゴニスト作用によるものと考えられる。
3. 化学名：(E)-1-(2-クロロ-1,3-チアゾール-5-イルメチル)-3-メチル-2-ニトログアニジン
4. 構造式及び物性



分子式	C ₆ H ₈ ClN ₅ O ₂ S
分子量	249.68
水溶解度	0.327 g/L (20°C)
分配係数	logPow = 0.7 (25°C)

(メーカー提出資料より)

5. 適用病害虫の範囲及び使用方法

本薬の適用病害虫の範囲及び使用法は以下のとおり。

なお、作物名となっているものについては今回適用拡大申請がなされたものを示している。

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメシ類 イネトオイムシ	4000倍	60~150 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱散布は1回以内、 本田では3回以内)
	ウンカ類 カメシ類 イネトオイムシ	1000倍	25L/10a				
稲 (箱育苗)	ウンカ類 ツマグロヨコバイ フタオヒコヤカ	200倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当たり 500mL	移植3日前~ 移植当日	1回	育苗箱 の上から均一 に散布する	
	イネトオイムシ イネミスヅウムシ	200~ 400倍					
れんこん	クワイバノアブラムシ	2000~ 4000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
きゅうり	ミナキイロアザミウマ アブラムシ類 コジラミ類			収穫前日まで			4回以内 (育苗期の株 元処理及び定 植時の土壌混 和は合計1回 以内、散布は3 回以内)
	アスパラガス						
すいか	アブラムシ類			4000倍			4回以内 (定植時の土 壌混和は1回 以内、散布は3 回以内)
	ミナキイロアザミウマ ウリハムシ	2000倍					

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍 率	使用液量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方 法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
メロン	アブラムシ類	4000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗期の株 元処理及び定 植時の土壤混 和は合計1回 以内、散布は3 回以内)
	コナジラミ類	2000~					
	ミナキイロアザミウマ	4000倍					
なす	トマトハモグリバエ	2000倍					
	ミナキイロアザミウマ ハモグリバエ類						
トマト ミニトマト	アブラムシ類 コナジラミ類	2000~ 4000倍					
	ハモグリバエ類	2000倍					
ピーマン	アブラムシ類	2000~ 4000倍					
	コナジラミ類	2000~ 4000倍					
	ミナキイロアザミウマ	2000倍					
にら	ミナキイロアザミウマ	2000倍	収穫3日前まで	3回以内	3回以内		
ブロッコリー	アブラムシ類	2000倍	収穫3日前まで	3回以内	3回以内		
だいこん	アブラムシ類	2000~ 4000倍	収穫7日前まで	2回以内	3回以内 (は種時の土壤 混和は1回以内、 は種後は2回以内)		
レタス	ハモグリバエ	2000倍	収穫3日前まで		3回以内 (育苗期の株元 処理は1回以内、 散布は2回以内)		
非結球レタス	アブラムシ類	2000~ 4000倍	2回以内	2回以内	2回以内		
	ハモグリバエ	2000倍					

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍 率	使用液量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方 法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
キャベツ	アブラムシ類	2000～ 4000倍	100～300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	3回以内 (は種時の散 布、育苗期の株 元処理及び定 植時の土壌混 和は合計1回 以内、散布は2 回以内)
	アオムシ	2000倍					
ねぎ	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	2000～ 4000倍			4回以内		4回以内
ばれいしょ	アブラムシ類	1000倍 4000倍	25L/10a	収穫7日前まで	3回以内		4回以内 (植付時の土壌 混和は1回以内、 植付後は3回以 内)
	テントウムシダマシ類	2000～ 4000倍	100～300 L/10a				
てんさい	テンサイヒメハムシ テンサイモグリバエ カメノコハムシ	100～ 200倍	1L/ペーパー ポット1冊 (3L/m ²)	定植前	1回	苗床 灌注	1回
えだまめ	アブラムシ類	2000～ 4000倍	100～300 L/10a	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内
	カメムシ類						
だいず	アブラムシ類 マメシクイガ	2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
	アタマジヒメハムシ	2000～ 4000倍					
	カメムシ類	2000～ 4000倍					
りんご	カメムシ類	4000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで			
	キンモンホリガ キンモンハモグリガ シクイムシ類 アブラムシ類 クワコカイガラムシ リンゴワタムシ	2000～ 4000倍					

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍 率	使用液量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方 法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
なし	シクイムシ類 アブラムシ類 クコカカガラムシ カメムシ類	2000～ 4000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
もも	アブラムシ類 モハモグリガ シクイムシ類 カメムシ類 コガネムシ類	2000倍		収穫7日前まで			
ネクタリン	アブラムシ類 モハモグリガ シクイムシ類 カメムシ類 コガネムシ類	2000～ 4000倍		収穫3日前まで			
おうとう	オウトウショウジヨウバエ カメムシ類	2000倍		収穫前日まで			
うめ	ケムシ類 アブラムシ類	2000～ 4000倍		収穫7日前まで			
ぶどう	コカカガラムシ類 チャノキイロアザミマ フタテンヒメヨコバイ			収穫14日前まで			
マンゴー	アザミマ類 コカカガラムシ類			収穫7日前まで			
いちじく	アザミマ類			収穫3日前まで			
すもも あんず	アブラムシ類	4000倍		収穫3日前まで			
豆類 (種実、た だし、だい ず、らっか せいを除 く)	アブラムシ類	4000倍		100～300 L/10a			

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍 率	使用液量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方 法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
かんきつ (みかんを 除く)	アブラムシ類 ミカンホムカブリガ アザミウマ類 ケキスイ類 コアオハナムグリ ツノウムシ コカカイラムシ類 コマダラカミキリ カメムシ類 アケハ類 アカマルカイラムシ ミカンキンゾウ	2000～ 4000倍	200～700 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
	ミカンハユ	2000倍					
かき	カキノヒメヨコバイ	4000倍	2000～ 4000倍				
	チャノキイロアザミウマ カキクダアザミウマ フジコカカイラムシ カキノヘタムシガ カメムシ類						
茶	チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ チャノホソガ		200～400 L/10a	摘採7日前まで	1回		1回
	コミカンアブラムシ	4000倍					
にがうり	ミナミキイロアザミウマ	2000～ 4000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内		3回以内

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍 率	使用液量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方 法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
みかん	ミカンモクダリガ	20倍	100mL/樹	収穫150日 前まで	1回	樹幹 散布	4回以内 (樹幹散布 は1回以内、 植付後は3回 以内)
	アブラムシ類 ミカンモクダリガ アザミヤカ類 ケキスイ類 コアオハムダリ ツノウムシ コカイカラムシ類 ゴマダラカミキリ カメムシ類 アゲハ類 アカマルカイラムシ	2000～ 4000倍	200～700 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	
	ミカンキジラミ ミカンハユ	2000倍					
	オクラ	2000～ 4000倍					
フンゲンサイ	収穫14日前まで						
みずな	収穫7日前まで						

(2) 1.0%クロチアニジン1キロ粒剤

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	1kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	4回以内 (但し本田 期は3回以 内)

(3) 0.50%クロチアニジン粒剤

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
稲	ウカ類 ツマグロヨコバイ	3kg/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗箱散布は 1 回以内、本田では 3 回以内)
	カメシ類	3~4kg/10a				
稲 (箱育苗)	イトヨトウムシ イトスズクムシ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5L) 1 箱 当り 50g	移植 3 日前~ 移植 当日	1 回	育苗箱の 苗の上か ら均一に 散布する	4 回以内 (育苗期の株元 処理及び定植時 の土壌混和は合 計 1 回以内、散布 は 3 回以内)
きゅうり	コナジラミ類 アブラムシ類	1g/株	育苗期後半		株元処理	
	コナジラミ類 アブラムシ類	1~2g/株	定植時		植穴処理 土壌混和	
	シメキイロアザミウマ	2g/株				
	アブラムシ類 シメキイロアザミウマ	1~2g/株				
すいか	アブラムシ類 シメキイロアザミウマ	1~2g/株	定植時		株元処理	
メロン	アブラムシ類 コナジラミ類	1g/株	育苗期後半		株元処理	
	アブラムシ類 シメキイロアザミウマ トマトハモグリバエ	1~2g/株 2g/株	定植時		植穴処理 土壌混和	
	アブラムシ類	1g/株				
	アブラムシ類 マメハモグリバエ コナジラミ類	1g/株				
なす	アブラムシ類 マメハモグリバエ コナジラミ類	1g/株	育苗期後半 定植時	株元処理 植穴処理 土壌混和		
トマト ミニトマト	アブラムシ類	1~2g/株	鉢上時	株元処理		
	コナジラミ類		定植時			
	アブラムシ類 マメハモグリバエ トマトハモグリバエ	2g/株		植穴処理 土壌混和		
	アブラムシ類	1g/株				

(3) 0.50%クロチアニジン粒剤 (つづき)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
いちご	アブラムシ類	1g/株	定植時	1回	植穴処理 土壌混和	1回
だいこん		3~6kg/10a	は種時		播溝処理 土壌混和	3回以内 (は種時の土壌 混和は1回以内、 は種後は2回以 内)
レタス		0.5g/株	育苗期後半		株元処理	3回以内 (育苗期の株元 処理は1回以内、 散布は2回以内)
ねぎ わけぎ あさつき	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	3~6kg/10a	収穫3日前まで	4回以内	株元散布	4回以内
キャベツ	アブラムシ類 ハイマダラノメイガ	0.25g/株	は種時	1回	覆土後セル 成育苗トレ イの上から 散布する	3回以内 (は種時の散布、 育苗期の株元処 理及び定植時の 土壌混和は合計1 回以内、散布は2 回以内)
	ネキリムシ類 コガ アオムシ アブラムシ類	0.5g/株	育苗期後半		株元処理	
	アブラムシ類	1g/株	定植時		植穴処理 土壌混和	
	コガ アオムシ	2g/株				
れんこん	クワイケビレアブラムシ	6kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
ばれいしょ	アブラムシ類		植付時	1回	植溝処理 土壌混和	4回以内 (植付時の土壌 混和は1回以内、 植付後は3回以 内)
かんしょ	コガムシ類					作条処理 土壌混和

(3) 0.50%クロチアニジン粒剤 (つづき)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
ピーマン	アブラムシ類	1g/株	育苗期後半	1回	株元処理	3回以内 (育苗期の株元 処理及び定植時 の土壌混和は合 計1回以内、散布 は2回以内)
			定植時		植穴処理 土壌混和	

(4) 0.15%クロチアニジン粒剤 DL

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
稲	ウカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類	3~4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱散布は1 回以内、本田では 3回以内)
	イナゴ類	4kg/10a				
	イネトモイロムシ フタホシコヤガ	3kg/10a				
だいず	アブラムシ類 カメムシ類	4kg/10a	収穫7日前まで			3回以内

(5) 1.5%クロチアニジン箱粒剤

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
稲 (箱育苗)	ウカ類 ツマグロヨコバイ イネミスジウメシ イネトモイロムシ ニカメイトウ フタホシコヤガ イネハモクダリハエ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5L) 1箱当り 50g	移植3日前~ 移植当日	1回	育苗箱の 上から均 一に散布 する。	4回以内 (育苗箱散布は1 回以内、本田では 3回以内)

(6) 0.50%クロチアニジンH粉剤DL

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
稲	カメシ類 ウカ類 ツマゲロコバイ イゴ類 イネトムシ ニカメイトウ フタホコヤガ	3~4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱散布は1 回以内、本田では 3回以内)
	イネトモイシ	3kg/10a				
だいず	アブラムシ類 カメシ類 フタスジヒメハムシ	3~4kg/10a	収穫7日前まで			3回以内

(7) 20.0%クロチアニジン水和剤(フロアブル)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方 法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
稲	イゴ類 ウカ類 ツマゲロコバイ カメシ類	5000倍	60~150 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱散布 は1回以内、 本田では3回 以内)
	ウカ類 ツマゲロコバイ カメシ類	90倍	3L/10a			空中 散布	
	ウカ類 カメシ類	24倍	800mL/10a			無人ヘリ コプター による 散布	
だいず	アブラムシ類 カメシ類 マシクイガ	2500倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで		散布	3回以内
ばれいしょ	アブラムシ類	5000倍					4回以内 (植付時の土壌 混和は1回以内、 植付後では3回 以内)

6. 作物残留試験結果

(1) 分析の概要

① 分析対象の化合物

- ・ クロチアニジン

② 分析法の概要

試料をアセトンで抽出し、CHEM ELUT™ カラム、Sep-Pak®アルミナ(N)及びシリカカートリッジで精製した後、高速液体クロマトグラフにより定量する。

検出限界 0.002~0.05ppm。

(2) 作物残留試験結果

① 稲

稲(玄米)を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱(移植当日育苗施用)、及び16.0%水溶剤の4,000倍希釈液を計3回散布(150L/10a)したところ、散布後13^{注2)}~28日の最大残留量^{注1)}は0.134, 0.104 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲(玄米)を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱(移植当日育苗施用)、及び1.0%キロ粒剤を計3回散布(1kg/10a)したところ、散布後13^{注2)}~28日の最大残留量は<0.004, 0.026 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲(玄米)を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱(移植当日育苗施用)、及び0.15%粉剤DLを計3回散布(4kg/10a)したところ、散布後13^{注2)}~28日の最大残留量は0.048, 0.023 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲(玄米)を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱(移植当日育苗施用)、及び0.5%粒剤を計3回散布(4kg/10a)したところ、散布後14~22日の最大残留量は0.02, <0.01 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲(玄米)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱(移植当日育苗施用)、並びに0.5%粉剤DLを計3回散布(4kg/10a)したところ、散布後14~28日の最大残留量は0.07, 0.09 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲(玄米)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱(移植当日育苗施用)、並びに16.0%水溶剤の4,000倍希釈液を計3回散布(150L/10a)したところ、散布後14~28日の最大残留量は0.14, 0.12 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲(玄米)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱(移植当日育苗施用)、並びに0.5%粒剤を計3回散布(4kg/10a)したところ、散布後14~28日の最大残留量は0.01, 0.02 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに20.0%フロアブルの5,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は0.12, 0.13 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験（3例）において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに20.0%フロアブルの24倍希釈液を計3又は4回RCH散布（0.8L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は0.04, 0.16, 0.16 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び16.0%水溶剤の4,000倍希釈液を計3回散布（150 L/10a）したところ、散布後13^{註2)}～28日の最大残留量は0.11, 0.132 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び1.0%1キロ粒剤を計3回散布（1kg/10a）したところ、散布後13^{註2)}～28日の最大残留量は0.118, 0.176 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び0.15%粉剤DLを計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後13^{註2)}～28日の最大残留量は0.12, 0.142 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び0.5%粒剤を計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14～22日の最大残留量は0.72, 0.26 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに0.5%粉剤DLを計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は0.28, 2.75 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに16.0%水溶剤の4,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は0.18, 0.78 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに0.5%粒剤を計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は0.17, 2.16 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の200倍希釈

液を 0.5L/箱及び 2.5%箱粒剤を 50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに 20.0%フロアブルの 5,000 倍希釈液を計 3 回散布（150L/10a）したところ、散布後 14~28 日の最大残留量は 0.12, 1.02 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（3 例）において、16.0%水溶剤の 200 倍希釈液を 0.5L/箱及び 2.5%箱粒剤を 50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに 20.0%フロアブルの 24 倍希釈液を計 3 又は 4 回 RCH 散布（0.8L/10a）したところ、散布後 14~28 日の最大残留量は 0.81, 2.57, 2.28 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

②だいず

だいず（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2 例）において、0.5%粒剤を 6 kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、及び 16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（150, 200L/10a）したところ、散布後 7~21 日の最大残留量は 0.01, <0.01 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

だいず（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2 例）において、0.5%粒剤を 6 kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、及び 0.5%H 粉剤 DL を計 4 回又は 3 回散布（4 kg/10a）したところ、散布後 7~21 日の最大残留量は <0.01, <0.01^{注3)} ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

だいず（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2 例）において、0.5%粒剤を 6 kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、及び 20.0%フロアブルの 2,500 倍希釈液を計 3 回散布（200, 250L/10a）したところ、散布後 7~21 日の最大残留量は <0.01, <0.01 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

③ばれいしょ

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2 例）において、0.5%粒剤を 6kg/10 a（播種前播種溝処理土壌混和）、及び 16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（150L/10a）したところ、散布後 7~21 日の最大残留量は 0.002, 0.016 ppm であった。

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2 例）において、0.5%粒剤を 6kg/10 a（植付時植溝処理土壌混和）、及び 20.0%フロアブルの 2,500 倍希釈液を計 3 回散布（200, 250L/10a）したところ、散布後 7~21 日の最大残留量は <0.01, 0.01 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2 例）において、0.5%粒剤を 6kg/10 a（植付時植溝処理土壌混和）、及び 16.0%水溶剤の 1,000 倍希釈液を計 3 回散布（25L/10a）したところ、散布後 7~21 日の最大残留量は 0.03, <0.01 ppm であった。